

8月24日 基調講演に対する質問への回答

(「山と森林の月間」アンケート用紙裏面に記載いただいた質問に、JTB西日本株式会社奈良支店 森支店長より後日回答いただきました。)

質問①

「地域資源の魅力を再発見」という言葉が度々出てきましたが、普段は気づいていない魅力をどのような発想方法で発見しているのでしょうか？

わかりやすいアプローチを教えてください。(40代男性 大阪府)

基本的に地域のことは地域の皆様が一番詳しくご存知です。よって、私達が地域の皆様と相談をしながら、地域に潜在するコンテンツを利用して、お客様目線でどういったお客様にどういった価値をご提供できるかを考えることが新たな発見に繋がると考えております。

また、観光に来られるお客様のことだけを考えるのではなく、地元で暮らす皆様が同様に価値を見出せるかという観点も忘れてはいけないと考えております。

質問②

奥吉野(川上)へ、プロから見て行きたくなるキーワード・コンテンツには、何がありますか？

旅における「吉野の食」に対して、「あったらいいメニュー・サービス」(希望)が、もしありましたらお願いします。(30代女性 大淀町)

2つの質問に共通することですが、まず、思いつくのは「ヘルスツーリズム(森林浴・湧水・健康に良い食事等)」ですが、その他にも「五感」で考えること、「ニーズに応じてお客様が経験する」、それに対して「どういったサービスを提供するか」という観点で考えることで新たな価値を見出せると考えております。

キャンプのお話をしましたが、キャンプに慣れていてすべて自前で準備することに価値を見出すお客様がいれば、出来るだけ面倒なことはせず、食材などすべて用意されていて野外で食べることだけに価値を見出されるお客様もいらっしゃいます。

「杉の木」のにおいを感じながら何かをすれば、普段していることと同じことをしても違った価値を見出せる可能性があります。

「食」に関しても、この時間のこの場所の景色を見ながらこの椅子に座って〇〇と食べる〇〇とか、あまりお腹が空いていない時にでもおいしく食べれる〇〇など、単なるメニューではなく、お客様が食べられる際のメンバーやシチュエーションを考える

と食材を活かした新たな発想が生まれるのではないかと考えております。

意見

『水曜どうでしょう』『桜 稲垣さき ブログ旅』『旅猿』等、地方のテレビ局がキー局となって、タレントを使って旅をする番組が流行っています。奈良県も通過していますが、他の地方のローカルテレビのプロデューサーの知識が乏しく、その地方の核のルートを通らないものがある。こういう地方のテレビ局とうまくタイアップすることで、地方の活性化を向上できる番組が作っていければ、おもしろいものができそうです。

質問というより意見です。(40代男性 五條市)

地デジ化によりテレビのチャンネルも増え、この先双方向の技術が進化すれば、様々な取り組みができると考えています。地域活性化に向けた地元のニーズとテレビ局のニーズがうまく融合し、同時に旅先の受け入れ体制もアピールできて、訪れてみたいと感じていただけるような旅番組ができれば可能性は広がるのではないのでしょうか。